

豊川用水令和7年度冬渇水への対応について

令和7年夏以降続いた少雨傾向により、ダムや河川を水源とする全国の水路事業地区は過去に例を見ない「渇水」による用水供給リスクに直面しました。

そのなかで、豊川水系ではダムの枯渇が発生するなど、異常事態となり、別水系からの水融通等様々な緊急渇水対策が実施されました。

本資料は、節水解除（令和8年4月）に至るまでの243日間におよぶ節水期間において、水資源機構（豊川用水総合管理所他）が実施した節水対応（水利用調整、取水・導水管理、水資源の有効活用、流域関係者に対する情報発信等）について整理したものです。

※出典（写真）：「令和8年豊川渇水報告会（令和8年6月4日）」より抜粋



1. 豊川用水事業について
2. 豊川用水令和7年度冬渇水(気象及び水源)の状況について
3. 水資源機構(豊川用水総合管理所他)による渇水対応
 - (1)関係者(行政機関及び利水者等)調整
 - ◇豊川用水節水対策協議会
 - ◆豊川緊急渇水調整協議会
 - (2)水資源の有効活用
 - ①下流利水に影響のない範囲での豊川自流の有効活用
 - ②利水者間の水融通【三上橋地点からの取水】
 - ③宇連ダム、大島ダムにおける最低水位以下の貯留水の活用
 - ④寒狭川堰の貯留水の活用
 - (3)他水系からの水融通
 - ◇豊川緊急渇水調整協議会から他水系水利調整協議会への要請
 - ◇佐久間導水による緊急導水
 - (4)情報発信
 - ①節水への協力要請
 - ②マスコミ向け広報活動
4. 渇水対策の効果
5. 豊川用水令和7年度冬渇水への対応(総括)

豊川用水令和7年度冬渇水への対応について

1. 豊川用水事業について

- 水資源機構(豊川用水総合管理所他)では、渥美半島等の愛知県東三河及び静岡県湖西地域に対し農業用水や水道用水、工業用水を供給する豊川用水(2ダム、7調整池、幹線水路約112km他)の統合的な管理・運用を行っています。
- 豊川用水の受益エリアでは、都市用水7.8m³/s(上水道73万人、工業用水80事業所)、かんがい用水22.8m³/s(農地約17,200ha)の需要量があります。(年間総量上水道約5100万m³、工業用水約1500万m³、農業用水約1億8200万m³)
- このエリアは河川による水源が乏しく、これまで人口増加や産業の発展に伴い、豊川用水事業を通じて水源の安定化を図ってきた結果、水利用の多くがダム等の水源に依存しています。



水稲他、キャベツ、メロン、ブロッコリー、トマト、花木類他
農業産出額約1681億円



トヨタ自動車、日東電工等
製造品出荷額約6兆円



豊橋市他5市
蒲郡市は
豊川依存100%



大野頭首工



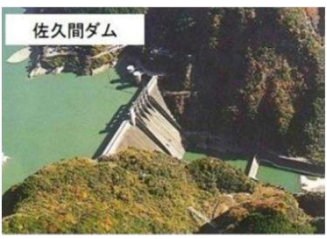
牟呂松原頭首工



大島ダム



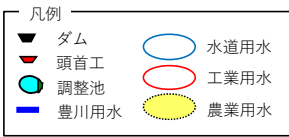
宇連ダム



佐久間ダム

図-1 豊川用水受益図・施設位置図

渥美半島



豊川用水令和7年度冬渇水への対応について

2. 豊川用水令和7年度冬渇水(気象及び水源)の状況

- 豊川水系では、令和7年夏からの少雨傾向が続き、宇連ダム地点の降水量は、令和7年11月から令和8年2月の降雨量が管理開始(昭和43年)後4番目に少ない顕著な少雨傾向でした。
- これにより水源の枯渇に伴う用水の安定供給リスクが懸念されたことから、利水者間の節水に関する調整、緊急渇水対策の立案、要請を行い、関係機関の協力を得ながら、適切な水源運用、施設操作等の渇水対応を実践しました。

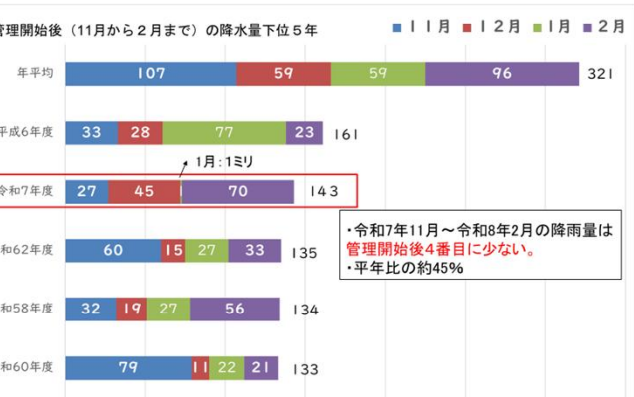


図-2 宇連ダム地点の降雨量(11月から2月まで)

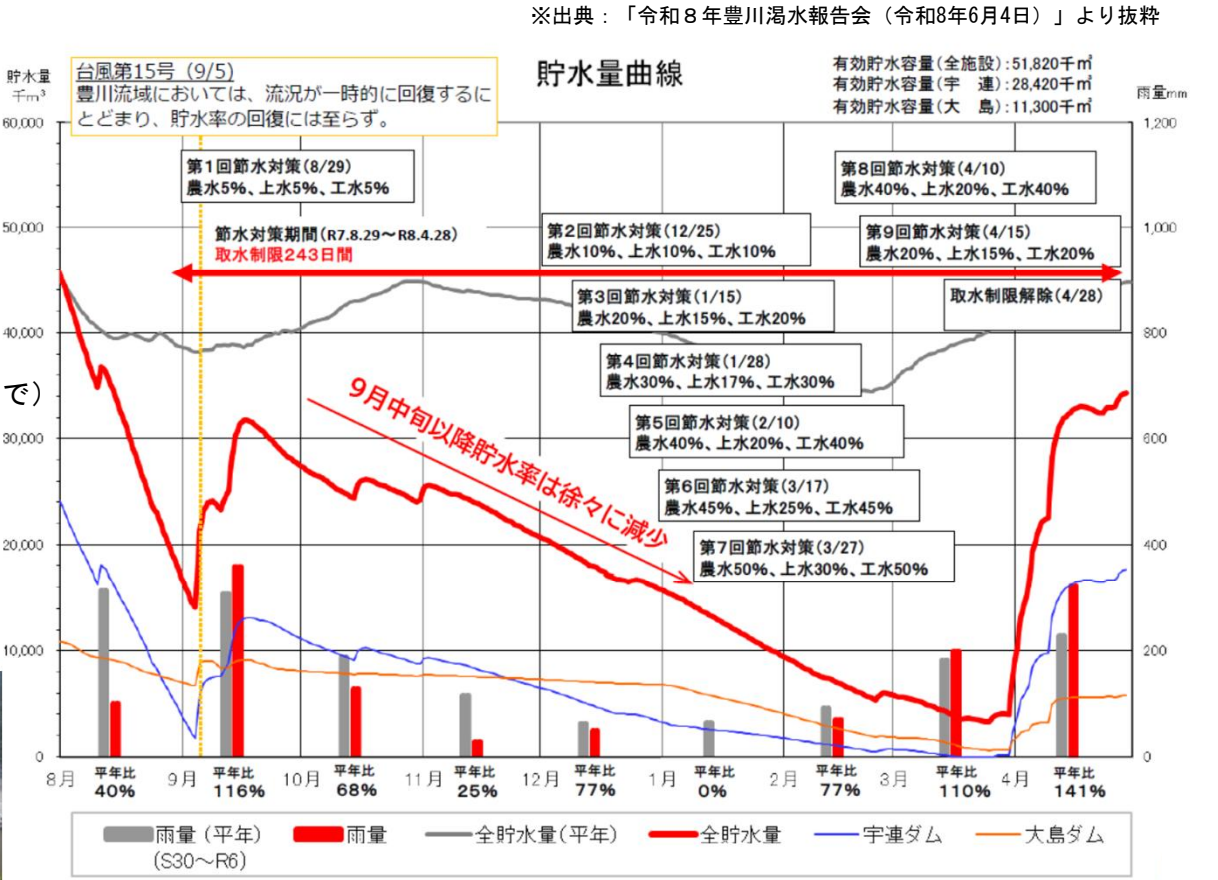
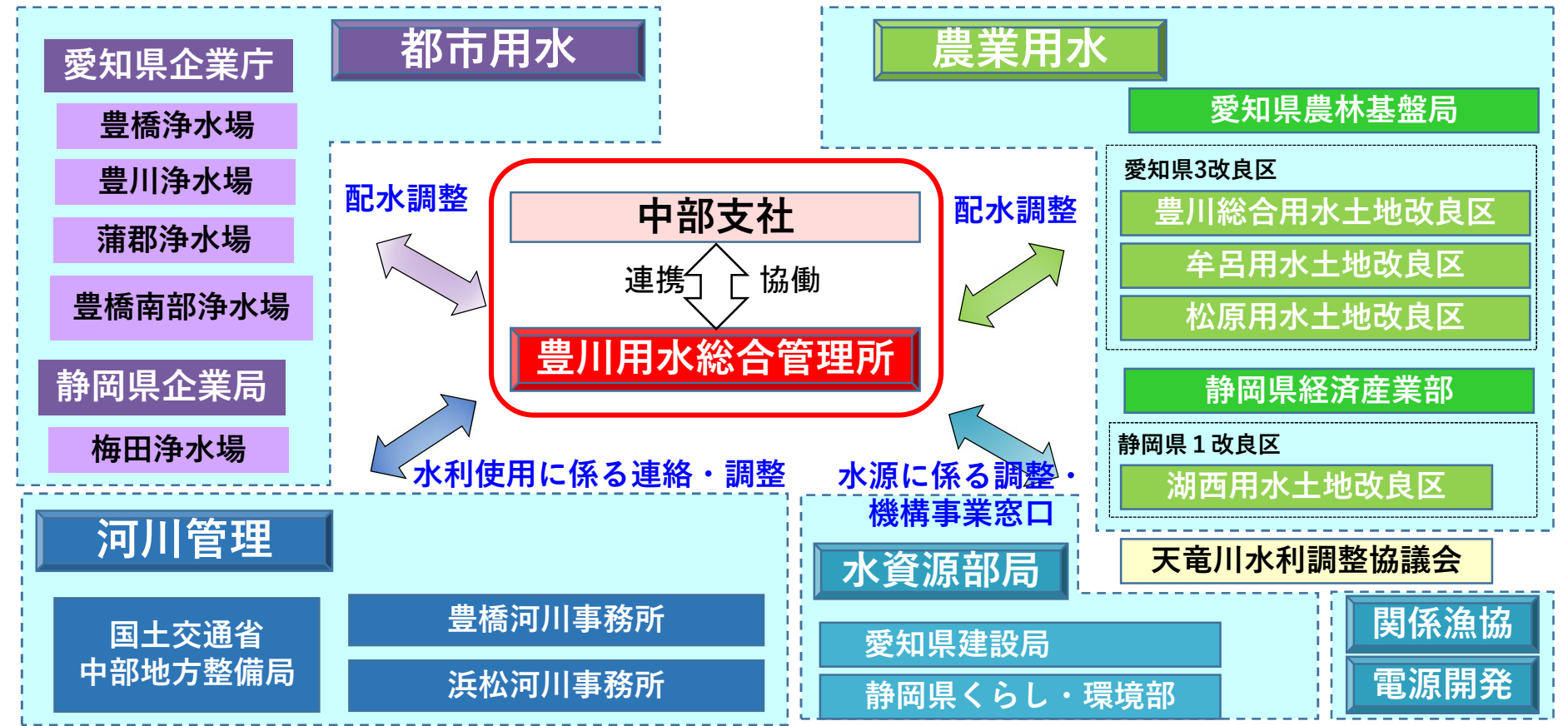


図-3 豊川用水(水源全体)の貯水量推移

- (1) 関係者（行政機関及び利水者調整）
- 水資源機構(豊川用水総合管理所他)では、2県10機関の関係利水者と「連絡・調整」を図り、24時間365日体制で安定的な水源運用、送配水管理を実践しています。
 - 今回の渇水対応においても、日夜多くの関係者(行政機関及び利水者)と連絡・調整を行いながら、節水対策(水利用調整等)に係るものについては、「節水対策協議会」を開催・運営し、関係者間の合意形成を図りました。
 - 更に渇水が深刻化したことを踏まえ、取水制限や水利調整等を河川管理者が先導する「豊川緊急渇水調整協議会」の開催を要請しました。その結果、2回にわたる緊急渇水対策が発動されました。



図－4 豊川用水利水関係機関模式図

(1) 関係者（行政機関及び利水者調整）：豊川用水節水対策協議会

- 令和7年8月29日に「渇水時における用水の節水と利水者への適正円滑な配水対策を検討し実施すること」を目的として、第1回の「豊川用水節水対策協議会(会長:水機構豊川用水総合管理所長)」が開催され、節水対策が開始されました。
- 同協議会の事務局である水機構(豊川用水総合管理所)では、**今後の需要量を想定した水源(貯水量)の見通しを作成**、適宜協議会へ報告し、順次節水が強化されました。

※出典：「令和8年豊川渇水報告会（令和8年6月4日）」より抜粋

	開催日	節水対策開始	節水率	期間
第1回節水対策協議会	令和7年8月28日(木)	①令和7年8月29日(金)	農5% 上5% 工5%	118日
第2回節水対策協議会	令和7年9月25日(木)	—	節水対策継続	—
第3回節水対策協議会	令和7年12月24日(水)	②令和7年12月25日(木)	農10% 上10% 工10%	21日
第4回節水対策協議会	令和8年1月13日(火)	③令和8年1月15日(木)	農20% 上15% 工20%	13日
第5回節水対策協議会	令和8年1月26日(月)	④令和8年1月28日(水)	農30% 上17% 工30%	13日
第6回節水対策協議会	令和8年2月9日(月)	⑤令和8年2月10日(火)	農40% 上20% 工40%	35日
第7回節水対策協議会	令和8年3月16日(月)	⑥令和8年3月17日(火)	農45% 上25% 工45%	10日
第8回節水対策協議会	令和8年3月26日(木)	⑦令和8年3月27日(金)	農50% 上30% 工50%	14日
第9回節水対策協議会	令和8年4月9日(木)	⑧令和8年4月10日(金)	農40% 上20% 工40%	5日
第10回節水対策協議会	令和8年4月14日(火)	⑨令和8年4月15日(水)	農20% 上15% 工20%	14日
第11回節水対策協議会	令和8年4月27日(月)	⑩令和8年4月28日(火)	節水解除	—



節水対策協議会状況

- (構成員)
- 愛知県農林基盤局
 - 愛知県企業庁
 - 静岡県経済産業部
 - 静岡県企業局
 - 豊川総合用水土地改良区
 - 牟呂用水土地改良区
 - 松原用水土地改良区
 - 湖西用水土地改良区
 - 独立行政法人水資源機構

豊川用水令和7年度冬渇水への対応について

3. 水資源機構(豊川用水総合管理所他)による渇水対応

(1) 関係者(行政機関及び利水者調整) : 豊川緊急渇水調整協議会

- 令和8年2月19日に「異常渇水時における水利使用の調整及びその円滑なる実施方法について協議すること」を目的として、第1回の「豊川緊急渇水調整協議会(会長:中部地整河川部長)」が開催され、緊急水利調整が開始されました。
- 水機構では、緊急渇水対策を立案するとともに、決定後は、その効果を発現されるため、綿密な関係機関調整と的確な施設操作、仮設ポンプ等の応急工事等を着実に実践しました。

日付	名称	内容
令和8年2月19日	第1回豊川緊急渇水調整協議会	緊急渇水対策決定
令和8年3月27日	第2回豊川緊急渇水調整協議会	緊急渇水対策決定

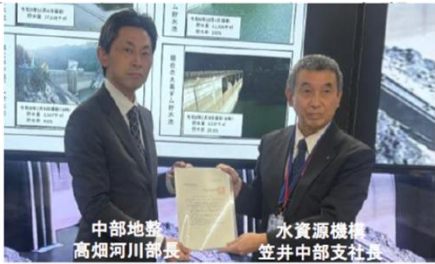
第1回メニュー

①下流水利に影響のない範囲での豊川自流の有効活用	牟呂松原頭首工下流の河川維持流量2.0m ³ /sを超える流水を取水口から取水し、牟呂松原幹線水路、森岡導水路を利用して東部幹線水路へ導水
②利水者間の水融通【三上橋地点からの取水】	三上橋地点で豊川下流必要量の残水を牟呂松原幹線水路へポンプアップにより送水し、森岡導水路を利用して東部幹線水路へ導水
③宇連ダム、大島ダムにおける最低水位以下の貯留水の活用	最低水位以下にポンプを設置し、最低水位以下の貯留水を取水ゲートまで揚水
④既得水利権者に対して節水への協力要請	既得水利権者に対して節水への協力要請

第2回メニュー

①佐久間導水による緊急導水	期間外ではあるが、天竜川水系の佐久間ダムから取水し、佐久間導水路を利用して宇連川へ導水
②幸田蒲郡線の緊急使用	矢作川水系である幸田浄水場から幸田蒲郡線を経由して蒲郡ポンプ場(豊川水系)に水を融通
③寒狭川堰の貯留水の活用	豊川の流水の正常な機能維持のため貯留している寒狭川堰の貯留水を補給し、他の水利用に活用
④既得水利権者に対する節水への協力要請	既得水利権者に対して節水への協力要請

豊川用水の渇水対策に関する要請
要望手交状況 2月9日



中部地方整備局 森本局長、静岡県 平木副知事、愛知県 江口副知事による三者会談
3月27日



豊川緊急渇水調整協議会における決定事項の継続を要請 4月10日



第1回 豊川緊急渇水調整協議会
協議会の状況 2月19日



第2回 豊川緊急渇水調整協議会
協議会の状況 3月27日



※出典:「令和8年豊川渇水報告会(令和8年6月4日)」より抜粋

豊川用水令和7年度冬渇水への対応について

3. 水資源機構(豊川用水総合管理所他)による渇水対応

(2) 水資源の有効活用 ① 下流利水に影響のない範囲での豊川自流の有効活用

■ 豊川自流の有効活用として、牟呂松原頭首工の通常時の取水制限流量($5.0\text{m}^3/\text{s}$)を下流利水に影響のない範囲として、 $2.0\text{m}^3/\text{s}$ に緩和するものです。また、大島ダム及び調整池の貯留制限流量も同地点に設定されており、同様に緩和するものです。このことにより、牟呂松原頭首工からの取水量増加に加え、大島ダム及び地区内調整池への早期かつ長期間の貯留が可能となりました。

■ 水機構では、当該取水・貯留条件に基づき、きめ細かな流況監視及び施設操作等を実践しました。

取水量：約 $175\text{万}\text{m}^3$ 期間：令和8年2月20日～令和8年4月27日（うち稼働日61日間）

※出典：「令和8年豊川渇水報告会（令和8年6月4日）」より抜粋



3. 水資源機構(豊川用水総合管理所他)による渇水対応

(2) 水資源の有効活用 ② 利水者間の水融通【三上橋地点からの取水】

- 豊川自流の有効活用として、一級河川豊川の三上橋地点(愛知県豊川市)で豊川下流に存する必要量(既得水利)の残水(利水者間の水融通)を牟呂松原幹線水路へポンプアップにより送水し、森岡導水路(愛知県企業庁所有)を利用して東部幹線水路へ導水するものです。このことにより、需要量の多い東部幹線水路系への補給が可能となりました。
- 水機構では、現地で揚水ポンプ設備と導水ホース等の設置工事を実施するとともに、現地に駐在して24時間体制でポンプの運転監視とメンテナンス管理等を実践しました。

取水量：約32万 m^3 期間：令和8年2月20日～令和8年3月25日(うち稼働日20日間)

※出典：「令和8年豊川渇水報告会(令和8年6月4日)」より抜粋



3. 水資源機構(豊川用水総合管理所他)による渇水対応

(2) 水資源の有効活用 ③宇連ダム、大島ダムにおける最低水位以下の貯留水の活用

- 宇連ダム、大島ダム底水の有効活用として、最低水位以下の貯留水を取水ゲートまで揚水し、ダム直下に放流するものです。これは、宇連ダムの運用開始(昭和43年)以来、初めてのことです。
- 水機構では、現地で揚水ポンプ設備と導水ホース等の設置工事を実施するとともに、監視カメラ(国交省設置)により24時間体制でポンプの運転監視とメンテナンス管理等を実践しました。

取水量：約29万 m^3 期間：令和8年3月17日より令和8年3月25日(9日間)

※出典：「令和8年豊川渇水報告会(令和8年6月4日)」より抜粋



3. 水資源機構(豊川用水総合管理所他)による渇水対応

(2) 水資源の有効活用 ④ 寒狭川堰の貯留水の活用

- 寒狭川堰により確保された不特定容量(64千m³)については、計画上寒狭川堰下流及び(寒狭川導水路を活用して)大野頭首工下流の流水の正常な機能の維持と増進を図るため活用されるものです。
- 当該不特定容量を寒狭川堰直下へ約0.1~0.2m³/sの補給を行うことにより、牟呂松原頭首工からの取水の一部を補給するとともに、寒狭川堰から牟呂松原頭首工間の流況改善を行うものとされました。
- 併せて、豊総施設の貯留条件である大野頭首工下流1.3m³/sを0.3m³/sに緩和し、大島ダム及び地区内調整池への早期かつ長期間の貯留が可能となりました。

■ 寒狭川堰及び寒狭川導水路



豊川流況総合改善事業実施区域

施設名 : 寒狭川堰、寒狭川導水路
管理者 : 国土交通省、(独)水資源機構兼用
管理開始 : 平成15年4月(19年経過)
水系名 : 豊川水系
所在地 : 愛知県新城市

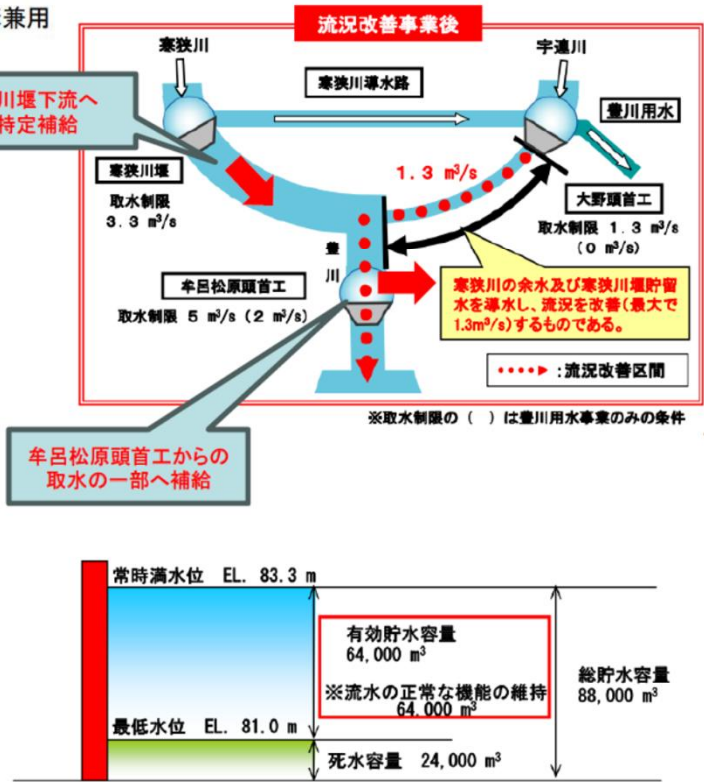


寒狭川堰



寒狭川導水路

※出典：「令和8年豊川渇水報告会(令和8年6月4日)」より抜粋



寒狭川堰貯水池容量配分図

豊川用水令和7年度冬渇水への対応について

3. 水資源機構(豊川用水総合管理所他)による渇水対応

(3) 他水系からの水融通 豊川緊急渇水調整協議会から他水系水利調整協議会への要請

- 令和8年3月27日から節水強化として第7回節水対策(水道用水30%、農業用水50%、工業用水50%)を実施
- 天竜川水系でも令和7年12月19日から第2次取水制限(水道用水10%、農業用水20%、工業用水20%)を実施
- 豊川水系における節水対策が限界に近づいたことから中部地方整局の仲介により愛知県と静岡県による三者会談を実施し、両県の現状について理解を深め、渇水被害の軽減に向けて、連携・調整していくことを確認しました。
- 令和8年3月27日 豊川緊急渇水調整協議会から天竜川水利調整協議会、矢作川水利調整協議会へ協力要請を行い、両協議会から承諾を得て、天竜川水系(静岡県)から豊川水系(愛知県)への佐久間導水実施、矢作川水系(愛知県)から豊川水系(愛知県)への幸田蒲郡線利用が決定されました。

※出典：「令和8年豊川渇水報告会(令和8年6月4日)」より抜粋

三者会談概要

- 日 時: 令和8年3月27日(金)
14:00～14:30
- 会 場: 静岡県庁
- 出席者: 中部地方整備局
森本 輝 整備局長
静岡県
平木 省 副知事
愛知県
江口 幸雄 副知事

天竜川水利調整協議会(会長: 縣 静岡県くらし・環境部長)



三者会談



豊川緊急渇水調整協議会(会長: 高畑河川部長)



3. 水資源機構(豊川用水総合管理所他)による渇水対応

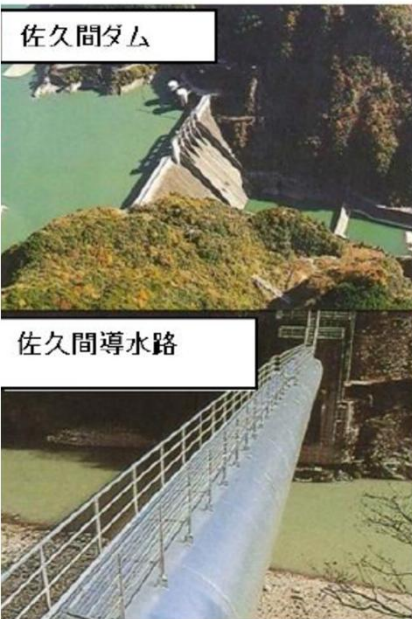
(3) 他水系からの水融通 佐久間導水による緊急導水

- 宇連ダム、大島ダムが枯渇した場合は、天竜川水系からの水融通(佐久間導水)しか手段はない状況でした。
- しかし、天竜川水系でも取水制限が実施されていたため、**佐久間導水の要請にあたっては、豊川水系において最大限の節水対策を実施していることが必要であり、宇連ダム枯渇時、大島ダム枯渇時に段階的に強化することとしました。**
- 今回の佐久間導水は、協定に取り決めのない異例の導水となることから、必要最小限とすべく、節水率の強化、ダム底水の活用等を実施した上で、最大取水量 $4.2\text{m}^3/\text{s}$ 、期間総量は 850万m^3 としました。

導水量：約 29万m^3 期間：令和8年4月25日～令和8年4月27日（3日間：最大 $2.5\text{m}^3/\text{s}$ ）

※出典：「令和8年豊川渇水報告会（令和8年6月4日）」より抜粋

佐久間導水による緊急導水 4月25日から実施



豊川用水令和7年度冬渇水への対応について

3. 水資源機構(豊川用水総合管理所他)による渇水対応

(4)情報発信 ①節水への協力要請

■ 渇水の深刻化を受け、利水者及び関係市と連携し、マスコミ報道、チラシ、ポスター、SNS、公用車等による広報活動等を通じて、節水への協力要請を実施しました。

※出典：「令和8年豊川渇水報告会（令和8年6月4日）」より抜粋



やしの実FM出演



駅前でのPR活動



XやHPによるPR



駅構内でのPR



豊川市大型商業施設でのPR



横断幕・車両によるPR

豊川用水令和7年度冬渇水への対応について

3. 水資源機構(豊川用水総合管理所他)による渇水対応

(4) 情報発信 ② マスコミ向け広報活動

■ 渇水対応の各段階において、マスコミ向けの現地説明会等の広報活動を展開し、関係情報の適時適切な発信に努めました。

宇連ダム現地説明会
令和8年2月6日



豊川緊急取水現地説明会
令和8年2月20日



※出典:「令和8年豊川渇水報告会(令和8年6月4日)」より抜粋

宇連ダム緊急取水現地説明会
令和8年3月17日

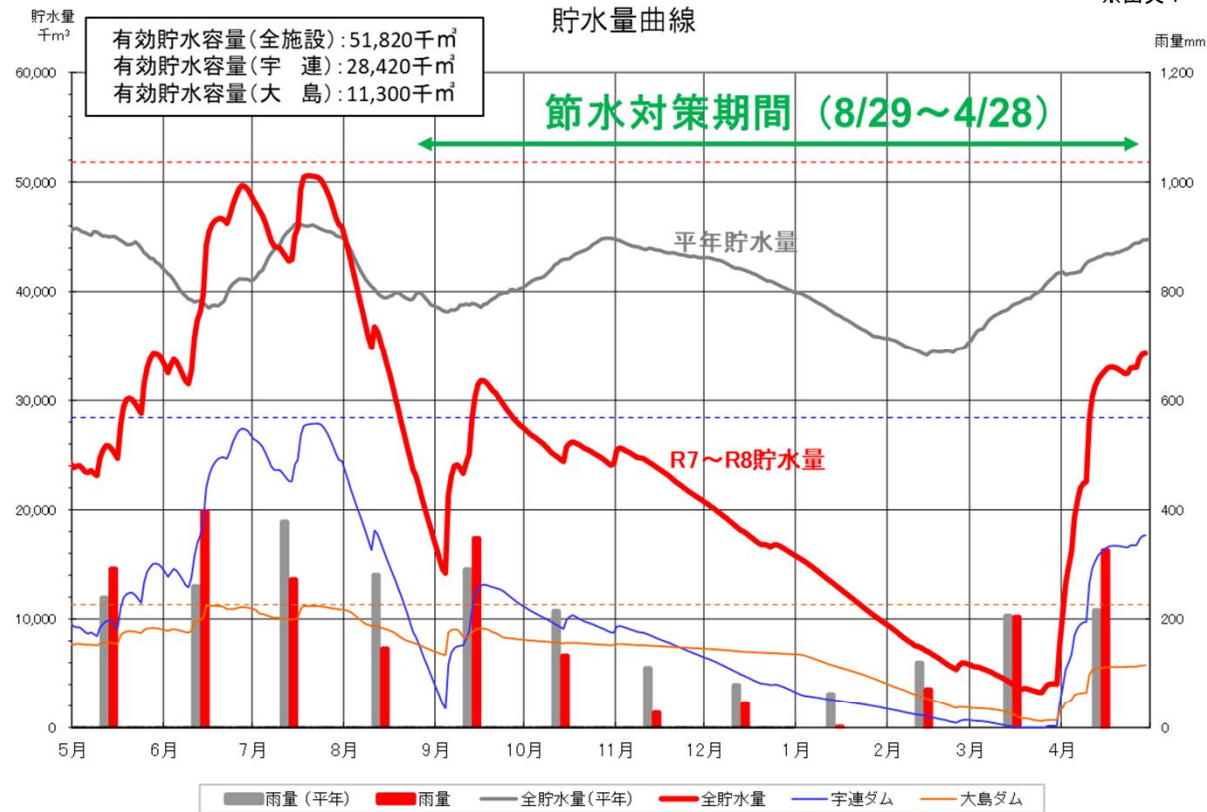


4. 渇水対策の効果

①使用量の縮減効果

- 節水対策は、第1回(農業5%、水道5%、工業5%)から、計7回にわたり段階的に強化され、最大で農業50%、水道30%、工業50%の節水率に達しました。
- これにより、243日間で約1,800万m³もの用水削減効果があったものと見込んでいます。

※出典：「令和8年豊川渇水報告会(令和8年6月4日)」より抜粋



節水対策開始	節水率	期間
①令和7年8月29日(金)	農5% 上5% 工5%	118日
—	農5% 上5% 工5%	—
②令和7年12月25日(木)	農10% 上10% 工10%	21日
③令和8年1月15日(木)	農20% 上15% 工20%	13日
④令和8年1月28日(水)	農30% 上17% 工30%	13日
⑤令和8年2月10日(火)	農40% 上20% 工40%	35日
⑥令和8年3月17日(火)	農45% 上25% 工45%	10日
⑦令和8年3月27日(金)	農50% 上30% 工50%	14日
⑧令和8年4月10日(金)	農40% 上20% 工40%	5日
⑨令和8年4月15日(水)	農20% 上15% 工20%	14日
⑩令和8年4月28日(火)	節水解除	—

計 243日間



満水時の大島ダム

月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
宇連ダム地点降水量												
平年値	248mm	280mm	360mm	300mm	286mm	213mm	108mm	72mm	58mm	108mm	199mm	215mm
実績	291mm	396mm	272mm	145mm	347mm	132mm	27mm	45mm	1mm	70mm	203mm	325mm
平年比	117%	141%	76%	48%	122%	62%	25%	63%	2%	65%	102%	151%

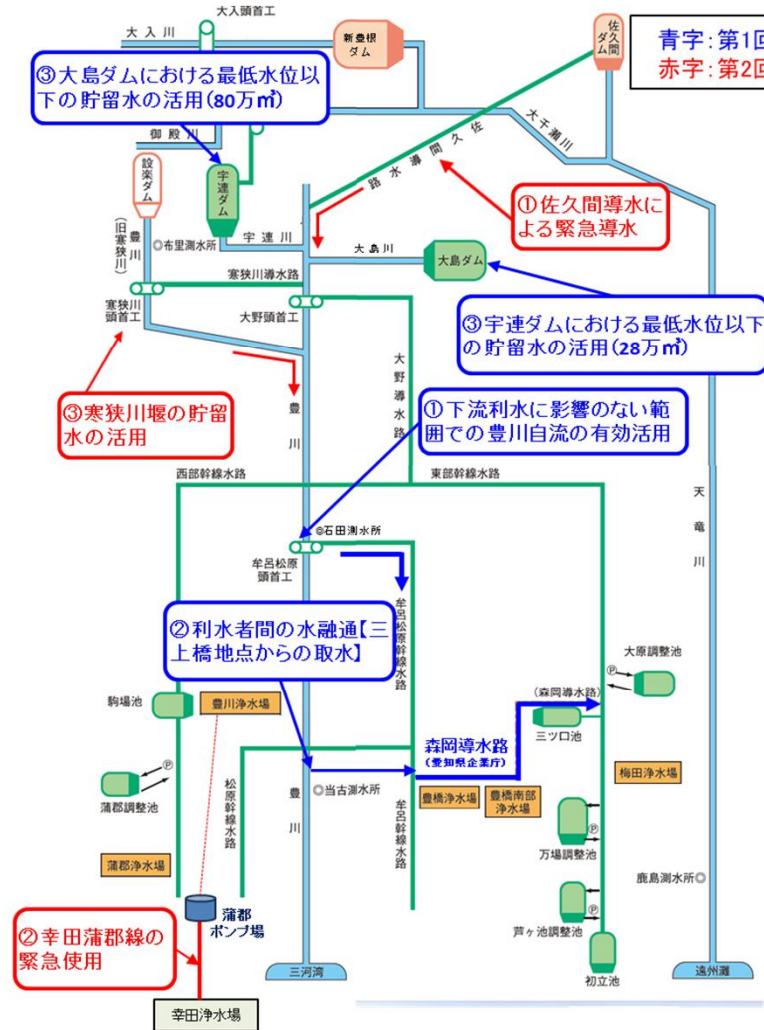
平年値は平成14年以降の値を使用

節水対策により、約1,800万m³の水の使用量を減らすことができた(大島ダム約1.6個分)

4. 渇水対策の効果

②緊急水源の確保効果

- 緊急渇水対策として、正規の水利使用では実施できない取水及び導水を6メニュー設定、5メニュー実施しました。
- これにより、約278万m3もの緊急水源確保効果があったものと見込んでいます。



第1回メニュー

※出典：「令和8年豊川渇水報告会（令和8年6月4日）」より抜粋

①下流利水に影響のない範囲での豊川自流の有効活用	牟呂松原頭首工下流の河川維持流量2.0m ³ /sを超える流水を取水口から取水し、牟呂松原幹線水路、森岡導水路を利用して東部幹線水路へ導水
②利水者間の水融通【三上橋地点からの取水】	三上橋地点で豊川下流必要量の残水を牟呂松原幹線水路へポンプアップにより送水し、森岡導水路を利用して東部幹線水路へ導水
③宇連ダム、大島ダムにおける最低水位以下の貯留水の活用	最低水位以下にポンプを設置し、最低水位以下の貯留水を取水ゲートまで揚水
取水量計 約236万m3	①約175万m3+②約32万m3+③29万m3

第2回メニュー

①佐久間導水による緊急導水	期間外ではあるが、天竜川水系の佐久間ダムから取水し、佐久間導水路を利用して宇連川へ導水
②幸田蒲郡線の緊急使用	矢作川水系である幸田浄水場から幸田蒲郡線を経由して蒲郡ポンプ場（豊川水系）に水を融通
③寒狭川堰の貯留水の活用	豊川の流水の正常な機能維持のため貯留している寒狭川堰の貯留水を補給し、他の水利用に活用
導水量計 約42万m3	①約29万m3+②約13万m3+③0m3

5. 令和7年度冬渇水への対応(総括)

(1) 令和7年度冬渇水の特徴

- ・過去に希少な**冬渇水**であったこと。(H13豊総事業完了以降、3回目)
- ・**節水日数が243日間という長期**に及んだこと。(〃 最長日数)
- ・**節水率が過去最大**となったこと。(〃 第2位 農業40% 水道28% 工業40%)
- ・**緊急渇水対策を実施するに至った**こと。(〃 2回目)
- ・緊急渇水対策として**新たなメニューが立案**されたこと。(佐久間導水、寒狭川堰貯留水活用他)

(2) 令和7年度冬渇水への対応

- ・水源状況説明会 9回(主催)、節水対策協議会 11回(主催)、緊急水利調整要請 4回、緊急水利調整協議会 2回(出席)、その他(土改区総代会等の場で状況報告)
- ・広報活動: 記者発表 13回、報道機関向け現地説明会 3回、チラシ・横断幕・マスメディア随時

(3) 今回節水対応を踏まえ今後に継承すべき重要事項

①緊急渇水対策(メニュー)の実践マニュアル化

→緊急対策メニューを実施し、当初想定どおり効果を発現、工事実施方法及び施設操作の妥当性が確認されたため、マニュアル等として体系的に整理・継承する。

②関係者による創意工夫(利水影響を最小化)

→過去最大の節水強化という状況下において、関係者(利水者等)は農業生産、市民生活、工場生産等への影響を最小化すべく様々な対策を実施した。これらの実績を基に機構として対応すべき事項等について、整理・継承する。具体的な利水影響については、次頁参照。

③関係機関との連携・協力関係の構築

→今回異常渇水を乗り越えることができたのは、関係者相互の連携、協力の賜である。従って、機構として、管理業務全般に関し常日頃から綿密な調整を行い、信用・信頼を得ることが肝要。

豊川用水令和7年度冬渇水への対応について

5. 令和7年度冬渇水への対応(総括)

(4) 節水強化に伴う利水影響

農業用水	土地改良区、農家、JA、県農林事務所他	
・緊急水源である井戸ポンプの使用（ポンプ運転経費が増嵩） ・少量配水に対応したバルブのきめ細やかな開閉操作及び見回り ・畔塗や畦畔の補修による水田からの漏水防止の徹底 ・水田に降った雨水を貯めて有効活用 ・キャベツの作付時期を見合わせ、(天気予報を見て)天水頼みで定植 ・東三河営農用水対策班会議の実施(農業関係者による作戦会議等)		    バルブ開閉作業 井戸ポンプ使用 雨水の水田内貯留 営農用水対策班会議
水道用水	県水道事務所、豊橋市他関係5市他	  夜間、11時～5時 水道ノータッチ運動 不要不急な水の使用は控えましょう 水道水の夜間使用自粛 夜間ノータッチ運動
工業用水	工水受水事業者	  受水バルブ調整 循環水利用強化

※上記の内容については、「令和8年豊川渇水報告会（令和8年6月4日）」資料を基に記載しています。 ※出典（写真）：「令和8年豊川渇水報告会（令和8年6月4日）」より抜粋
※出典（写真）：「御礼 豊川用水における緊急渇水対策について 2026年5月 愛知県」より抜粋

（参考資料）

1. 豊川総合用水事業の効果
2. 豊川用水のストック効果（農業、水道、工業）
3. 豊川用水における過去の渇水対応（令和6年度迄の実績）



※出典（写真）：「御礼 豊川用水における緊急渇水対策について 2026年5月 愛知県」より抜粋

豊川用水令和7年度冬渇水への対応について

(参考資料) 1. 豊川総合用水事業の効果

○平成初期の渇水との比較： 豊川総合用水事業による水源増強(平成13年度)

※出典：「令和8年豊川渇水報告会(令和8年6月4日)」より抜粋

豊川用水事業 S42年完成

- ・ 宇連ダム (2,842万³m)
 - ・ 三ツ口池 (20万³m)
 - ・ 初立池 (160万³m)
 - ・ 駒場池 (80万³m)
- 有効貯水量 3,102万³m

↓ 農業の営農形態の近代化、人口増加と生活水準の高度化が進んだことから、水源増強

豊川総合用水事業 H13完成

- ・ 宇連ダム (2,842万³m)
 - ・ 三ツ口池 (20万³m)
 - ・ 初立池 (160万³m)
 - ・ 駒場池 (80万³m)
 - ・ 大島ダム (1,130万³m)
 - ・ 大原調整池 (200万³m)
 - ・ 万場調整池 (500万³m)
 - ・ 芦ヶ池調整池 (200万³m)
 - ・ 蒲郡調整池 (50万³m)
- 有効貯水量 5,182万³m



渇水の記録

豊川総合用水事業前

年度		最大節水率(%)			節水日数
西暦	和暦	農水	上水	工水	
1973	S48	50	10	20	36
1974	S49	—	—	—	—
1975	S50	—	—	—	—
1976	S51	—	—	—	—
1977	S52	30	10	10	231
1978	S53	40	15	15	316
1979	S54	40	15	15	366
1980	S55	10	—	—	365
1981	S56	40	10	10	161
1982	S57	40	15	20	22
1983	S58	40	15	20	88
1984	S59	44	22	27	297
1985	S60	40	15	20	45
1986	S61	44	10	15	214
1987	S62	48	24	31	221
1988	S63	30	10	15	69
1989	H1	20	5	10	14
1990	H2	20	5	10	42
1991	H3	30	10	15	27
1992	H4	30	10	15	96
1993	H5	20	10	15	65
1994	H6	60	35	60	181
1995	H7	50	30	50	258
1996	H8	45	25	45	206
1997	H9	10	5	10	193
1998	H10	10	5	10	27
1999	H11	5	5	5	73
2000	H12	15	10	15	87
2001	H13	43	27	43	140

豊川総合用水事業後

年度		最大節水率(%)			節水日数
西暦	和暦	農水	上水	工水	
2002	H14	40	25	40	54
2003	H15	—	—	—	—
2004	H16	—	—	—	—
2005	H17	30	20	30	109
2006	H18	10	10	10	37
2007	H19	—	—	—	—
2008	H20	—	—	—	—
2009	H21	—	—	—	—
2010	H22	—	—	—	—
2011	H23	—	—	—	—
2012	H24	5	5	5	10
2013	H25	40	28	40	54
2014	H26	5	5	5	10
2015	H27	—	—	—	—
2016	H28	—	—	—	7
2017	H29	—	—	—	—
2018	H30	—	—	—	—
2019	R1	15	15	15	67
2020	R2	—	—	—	—
2021	R3	—	—	—	—
2022	R4	—	—	—	—
2023	R5	—	—	—	—
2024	R6	—	—	—	—
2025	R7	50	30	50	258
2026	R8	50	30	50	28

節水日数は自主節水期間含む

管理開始以降、毎年のように大小の節水対策を実施していたが、豊川総合用水事業完了後は、水源を増強したことにより渇水は減っている。

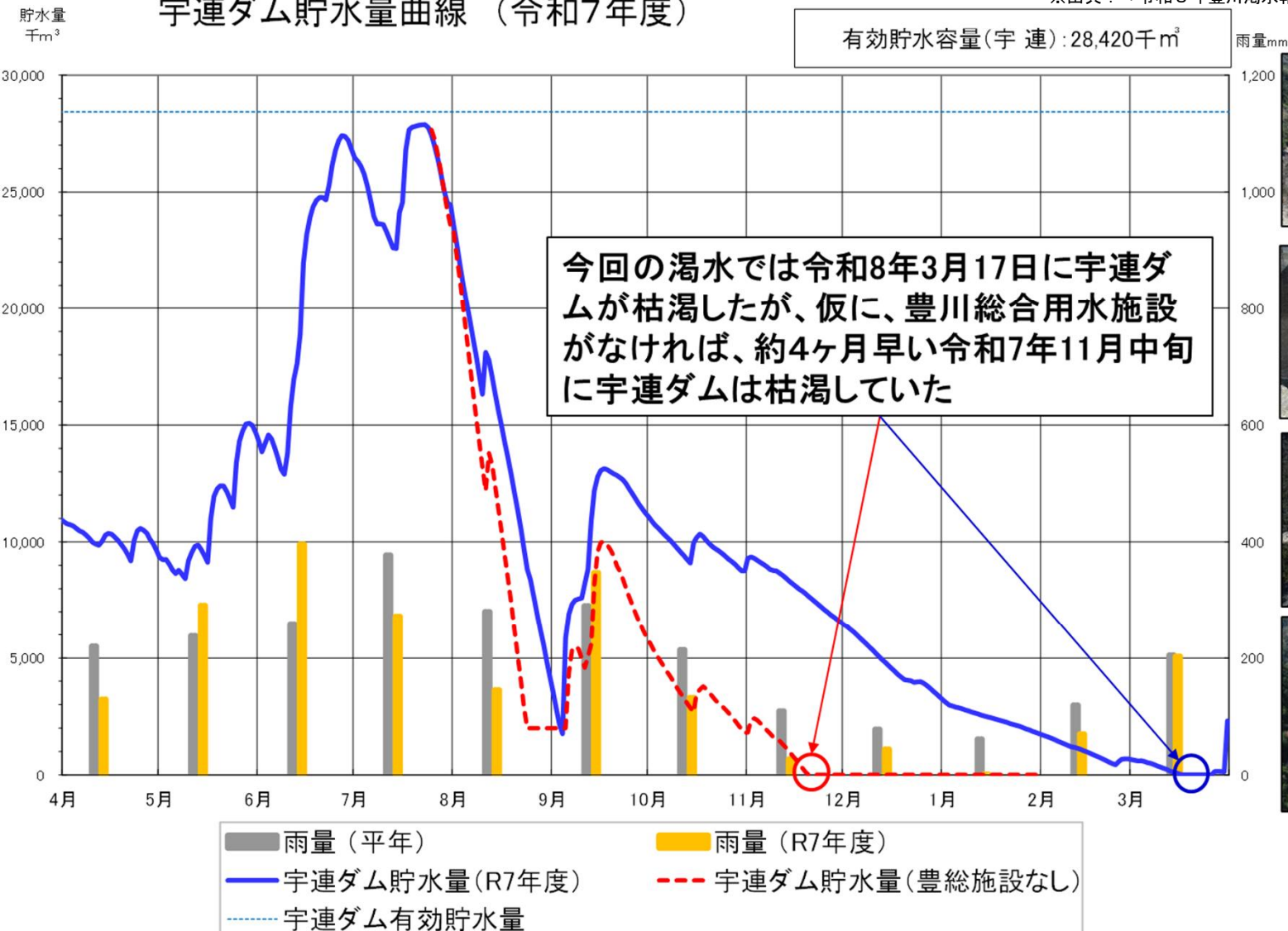
豊川用水令和7年度冬渇水への対応について

(参考資料) 1. 豊川総合用水事業の効果

■ 今回渇水では、令和8年3月17日に宇連ダムが枯渇しましたが、もし仮に豊川総合用水施設(大島ダム、地区内調整池等)がなければ、約4か月早い令和7年11月中旬には枯渇していたものと見込んでいます。

宇連ダム貯水量曲線 (令和7年度)

※出典:「令和8年豊川渇水報告会(令和8年6月4日)」より抜粋



R8.3.17宇連ダム枯渇

豊川用水令和7年度冬渇水への対応について

(参考資料) 2. 豊川用水のストック効果(農業、水道、工業)

東三河地域、湖西地域の農業の飛躍的な発展に貢献

愛知県東三河地域と静岡県湖西地域6市の約17,200haの農地に農業用水を供給。
農業用水の安定的な供給と温暖な気候と都市近郊の立地条件に恵まれ、収益性の高い路地野菜、施設園芸、果樹等栽培を拡大。

田原市は、市町村別農業産出額(耕種)6年連続(H26～R1)全国1位。

愛知県農業産出額全国ランキング《受益地区関連》(R4)

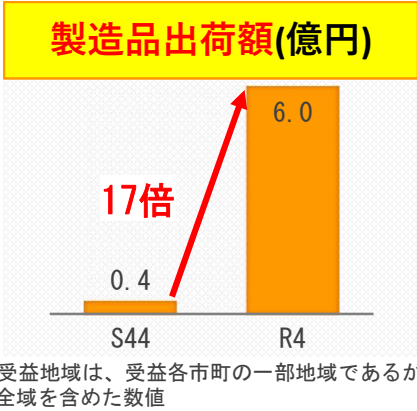
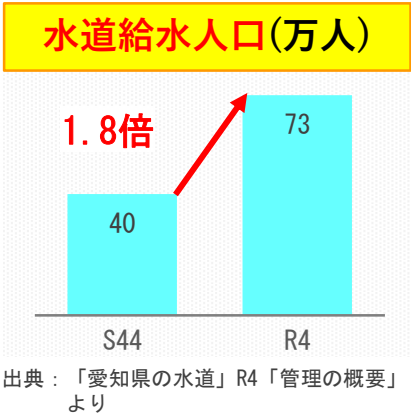


給水人口の増加に対応

愛知県の5市、約73万人に水道用水の約7割を供給。

企業の進出を促し飛躍的に発展

豊橋港を中心とする東三河地域、湖西地域の鉄鋼、食料品、輸送機械器具製造等の80の事業所(R4)に工業用水を供給。



出典：経済産業省 工業統計調査「管理の概要」より

- これまで豊川水系フルプランエリアでは、平成6(1994)年及び平成17(2005)年等に大きな渇水被害が発生した。
- また、高い頻度で取水制限が行われ、平成19(2007)年以降は取水制限の頻度は減少したものの、令和元(2019)年には宇連ダムが枯渇するなど、近年も渇水が発生している。



平成6年渇水時の宇連ダム

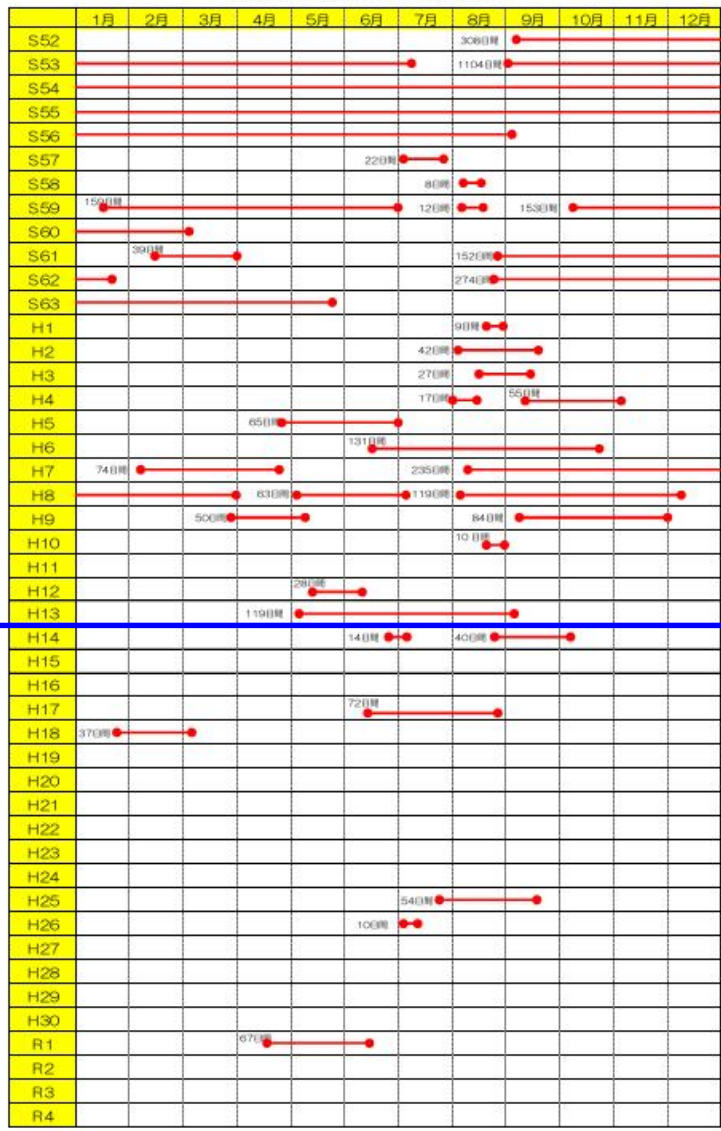
里芋の枯れ込み(豊川市内)

平成6年渇水と平成17年渇水の比較

項 目	平成6年渇水(愛知県の状況)	平成17年渇水(愛知県の状況)
流域平均年降水量	1,830mm	1,500mm
最大取水制限率	水道用水35% 工業用水60% 農業用水60%	水道用水20% 工業用水30% 農業用水30%
上水道給水人口	約703,000人	約733,000人
工業用水供給事業所	60事業所	59事業所
かんがい面積	約19,500ha	約17,600ha
水道の被害	・一時断水 約1,400戸 ・水質障害 約3,500戸 ・減圧給水	・減圧給水
工業の被害	・冷却水の回収、再利用の強化 ・一部生産ラインの停止・作業時間の短縮による減産 ・渇水対策費	・冷却水の回収、再利用の強化
農業、水産業の被害	・番水の実施 ・稲の枯れ込み 約460ha ・果樹の生育不良 約120ha ・家畜の熱死、鮎・養殖魚・アサリの斃死など	・番水の実施

出典：第5回豊川部会資料(平成24年3月)

豊川水系の渇水履歴



豊総事業完了後

出典：渇水報告書